

コオ
ルイ
ファイ
ファ
バ

京大などと研究

薬の効き方の個人差判別

【京都】ファルコバイオシステムの京都大学オシステムズは京都大学ウイルス研究所などと共同で、抗ストレスたんぱく質である「チオレドキシニン」の量を測定できるチップの開発に乗り出した。体内のチオレドキシニンを測定することで、投与した医薬品の効き方の個人差などを効率よく割り出す技術の実用化を狙う。適切な治療方法の選択や病気の予防などにも応用していく考えだ。開発を狙うのは、微小なヒースにチオレドキシ

日経産業新聞

オベンチャーのレドックスパイオサイエンス(京都市)。近畿経済産業局の「地域新生コンソーシアム研究開発事業」として採択され、二〇〇二年度に七千五百万円の補助金支給が決まっている。

酸化ストレス防止に有用

抗体作成技術開発へ

コオ
ルイ
ファイ
ファ
バ

【京都】ファルコバイオシステムズは18日、京都大学ウイルス研究所の淀井淳司教授などと共同で、動脈硬化やがん発生の原因とされる酸化ストレスに対する有用な抗体作成技術「迅速抗体アッセイマイクロチップシステム」の研究開発を始め

日刊工業新聞

生体ストレス検査チップ 京大と連携、開発へ

ファルコ

ファルコバイオシステムズは18日、生体ス

持つ産業技術総合研究所(大阪府池田市)が二年間の予定で共同研究を進める。近畿経済産業局の「地域新生コンソーシアム研究開発事業」に採択され、本年度は補助金七千五百万円がついた。

Xの体内での濃度変化を迅速に把握できる抗体の作成に取り組む。

開発を計画しているのは、酸化作用を持ち、酸化ストレスから細胞や組織を守るタンパク質「チオレドキシニン」の血液中の濃度を迅速、簡便に測定し、糖尿病やC型肝炎、アレルギー、がんなどの治療や予防に役立てる方法。

現在は、大型装置での測定が研究されており、マイクロチップにチオレドキシンの抗体を付着させる技術を開発して簡単に濃度を測れるようにして、臨床検査や在宅医療での利用を目指す。

検査会社の同社と、チオレドキシンを発見した京都大ウイルス研究所、ベンチャー企業のレドック

京都新聞